

## 第2回蒲郡市生涯学習推進計画2022策定委員会次第

日 時 令和3年9月28日（火）  
午後2時から3時30分まで  
オンライン会議

- 1 生涯学習課長あいさつ
- 2 蒲郡市生涯学習推進計画2022進捗状況について（資料1、2）
- 3 蒲郡市生涯学習推進計画2022骨子案について（資料3、骨子案）
- 4 今後の策定の流れ
- 5 その他

## 生涯学習推進計画2022策定委員会 委員名簿

任期: 令和3年7月26日～令和4年3月31日

	区 分	所 属		氏 名
1	学識経験者	愛知教育大学	准教授	<small>なかやま ひろゆき</small> 中山 弘之
2	元教員	社会教育審議会	会長	<small>あだち やすとし</small> 足立 泰敏
3	ガールスカウト	社会教育審議会	副会長	<small>すずき ようこ</small> 鈴木 庸子
4	ボランティア・各種委員	社会教育審議会	委員	<small>いしかわ</small> 石川 たづ子
5	子ども会、子育てネットワーク	社会教育審議会	委員	<small>こばやし ひろこ</small> 小林 浩子
6	公民館長	社会教育審議会	委員	<small>まつやま てるお</small> 松山 照夫
7	保育協会	社会教育審議会	委員	<small>まるやま</small> 丸山 いづみ
8	蒲郡市立図書館	蒲郡市立図書館	館長	<small>あらい まりこ</small> 新井 麻利子
9	社会福祉協議会の推薦する者	社会福祉協議会	係長	<small>おおすか</small> 大須賀 めぐみ
10	蒲郡市文化協会の推薦する者	蒲郡市文化協会	会長	<small>なかむら つとむ</small> 中村 達
11	蒲郡市吹奏楽団の推薦する者	蒲郡市吹奏楽団	団長	<small>いなよし はつみ</small> 稲吉 初美
12	蒲郡商工会議所の推薦する者	総務課	課長	<small>あおき のぶたか</small> 青木 宣貴
13	蒲郡青年会議所の推薦する者	蒲郡青年会議所	理事長	<small>いとう けんじ</small> 伊藤 健二

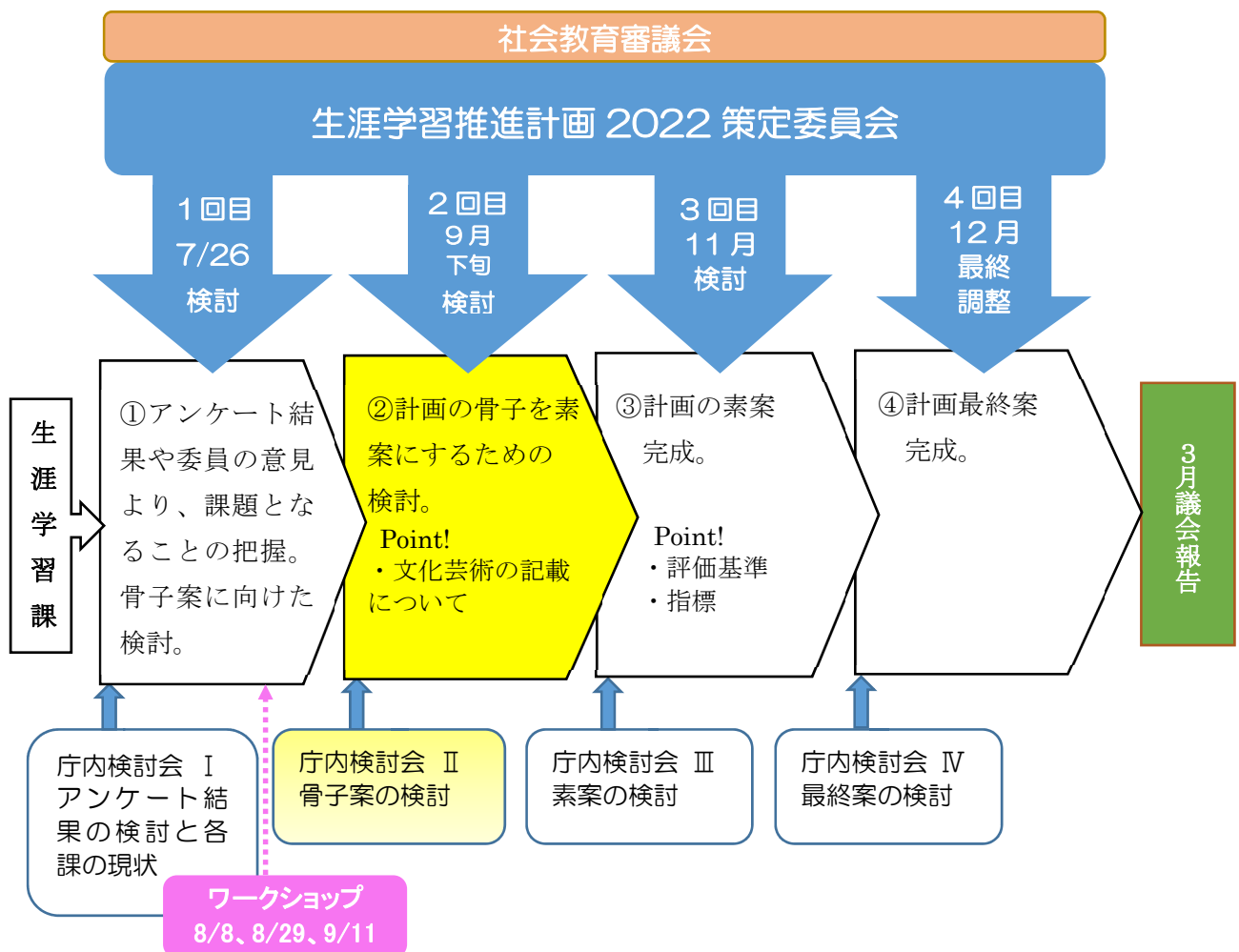
## 蒲郡市生涯学習推進計画 2022 について

現行計画の蒲郡市生涯学習推進計画 2017（平成 29 年度～令和 3 年度）は、3 つの基本目標、10 の基本施策、22 の主要施策とソフト面の整備が中心となる計画です。身の丈にあった施策として基本施策に沿った事業内容が展開されていますが、人生 100 年時代など新たな展開については反映されていませんでした。

生涯学習推進計画 2022 では、住民ひとりひとりが生涯にわたって **学習・文化芸術・生きが**いづくりなどに自発的に取り組む環境を整備するとともに、**学習・生活で得た知識・能力を有する貴重な人材**として地域の学習環境の向上や活性化に貢献する仕組みづくりを目指します。

※新計画から文化芸術の位置づけを追加します。

### ● スケジュール（予定）



## 蒲郡市生涯学習推進計画 2022 策定進捗状況

- 第 1 回庁内検討会 (7/16(金)開催)、第 1 回策定委員会 (7/26(月)開催)
  - ・ 第 1 期～第 3 期蒲郡市生涯学習推進計画、本計画の策定趣旨の説明
  - ・ 令和 2 年度実施市民アンケート、団体アンケート結果の分析結果報告
- 庁内ヒアリング (7/19～8/4 実施)
  - ・ 全課へ生涯学習に関する施策の取組状況の調査 27 課 (公所) から回答
- 団体・企業アンケート調査 (7/8～7/30 実施)、団体・企業ヒアリング (9/1 実施)
  - ・ 生涯学習団体 18 団体、企業 2 社にアンケート調査実施
  - ・ 上記から 3 団体、2 社で Zoom による座談会実施
- 市民ワークショップ (8/8 (日)、8/29 (日)、9/11 (土) 開催) 29 人申込
  - ・ 第 1 回 8/8 (日) 開催 滋賀大学横山教授による講演会聴講、蒲郡市生涯学習計画これまでの経緯、説明。グループトーク 16 人参加  
「生涯学習を推進するにあたっての課題」
  - ・ 第 2 回 8/29 (日) 開催 Zoom によるグループトーク 17 人参加  
「生涯学習を推進するにあたっての課題&解決策」
  - ・ 第 3 回 9/11 (土) 開催 Zoom によるグループトーク 16 人参加  
「生涯学習を推進するにあたっての課題の解決に向けてできること」
- 重点課題の抽出
  - ・ 市民アンケート、団体・企業アンケート及び座談会、市民ワークショップから見えてきた課題の整理、計画骨子案へ反映
- 計画骨子案
  - ・ 計画骨子案を 9 月中に庁内検討会、策定委員会で検討
- 計画素案
  - ・ 今後具体的な施策の検討を行い、第 3 回庁内検討会、策定委員会に諮問



## 【生涯学習とは…】

- 講演会を聞いて、すべてのことが生涯学習につながると感じた。
- 一生をかけて学び続けるものという意味で、生涯学習に取り組むことは意味があると思う。
- 今、興味があることを生涯続けていく。参加することに意義がある。

## 【まず、生涯学習について知ろう！】

- 生涯学習と言われてもピンとこない。今まで生涯学習について知る機会がなかった。
- 「生涯学習」は身近な言葉ではないので、生涯学習とは何かを知る必要がある。
- 若い世代の人が生涯学習について知る機会をつくる。

## 【ここが課題、これが必要！】

- 「学ぶ」ことへの動機づけ。
- 参加したくなる学習。参加したい学びがあるかどうかだと思う。
- 情報の発信。
- 知りたいから学びたいになる。今市民が知りたいことを考えるべき。
- この地で学び、活かしたいと思える環境を整えることが大切。
- 学び合う。教え合う。人のつながりを通した活動の広がり。
- 伝統を継続していくための学ぶ機会が必要。
- 交流の機会になるので、広報などで見たら積極的に参加することが大切。
- アンケート結果の分析等からニーズの高い講座を把握し、実施する。
- 市の職員とボランティアの協力が必要。
- 活動に参加してもらうために、蒲郡市の生涯学習のメニューをどう作っていくかが課題。
- 国の政策が縦割になっているので、全庁的に生涯学習政策を推進するのが難しい。

## 【生涯学習をしたいけれど…】

- 何かをしたいと思ってもどこへ問い合わせをしたらいいのかわからない。
- 学びたい気持ちがあるがスマートフォン、パソコンでできてしまう。
- 参加型の講座の対象者が少ない。

## 【ここを改善してほしい！】

- いつも使っている方たちが優先で、施設が気軽に使えない。市民会館も他市に比べ使いにくいので、学習成果を発表する場がないという声をよく聞く。
- 他市町村に比べて、公民館など利用制限が厳しい。
- Wi-Fi が施設に設置されていない。公民館に Wi-Fi をつないで、ZOOM 学習などができればよい。
- 市のやりたいこととボランティアのやりたいことにギャップがある。
- 科学館の講座は市外、県外からの参加者が多い。蒲郡市民の参加者がほしい。
- たくさんの人が参加することが大切で、参加者が偏らないようにしてほしい。
- 組に入っていないと広報が配布されないなど、転入者は情報を入手しづらい。
- それぞれの課が単独でやっている講座を合体してはどうか。

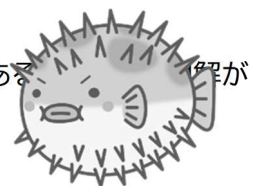
## 【こんな学習がしたい！】

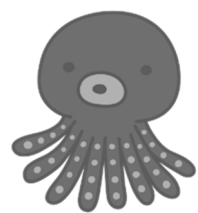
- まちづくりにつながる講座や生涯学習活動がほしい。
- 現役世代も無理なく参加できる環境があるとよい。
- 小・中学校との連携、地域との連携と生涯学習を結びつけた活動がほしい。
- 子育て世代も巻き込んだ活動がほしい。
- 子どもと親と一緒に楽しめて学べる企画があるといい。学びだと思えるものがあるといい。
- 子ども食堂がやれると良い。子どもだけではなく大人も利用できるように。
- 育休中に子どもと参加できて、地域のためになる活動があったらよい。
- 育休中に復職に向けたスキル向上のための学びがしたい。
- まちを活気づけられるような生涯学習の取り組みを市が提案し、年齢・性別を超えて一緒に活動ができると良い。
- 地域とのつながりを大切に企画があればよい。出身が蒲郡でない人にとって、コミュニティを構築する場であつたら良い。



## 【こんな環境がほしい！】

- 人が集まるような魅力ある施設があり、大人から子どもまでが自然と楽しみ学べるとよい。
- 好奇心旺盛な方は情報に精通しているので、生涯学習に進んで参加できる。参加に消極的な方は活動場所に知り合いがいると参加のハードルが低くなると思う。
- 障がいが軽度な方々は自身で行動できるので生涯学習への参加の機会には十分にある。障がいがある方がいると、もっと参加がしやすくなると思う。





## 【公民館に思うこと】

- 指導者の立場でみると、どこの公民館も積極的に活動していると思う。
- 複数の公民館にお世話になっているが、現状は満足。
- 公民館は高齢者と若い世代をつなげる努力をしてほしい。魅力のある講座を考える必要がある。
- 公民館は市からの規制が多い。参加型の講座や魅力的な講座が必要。
- 世代をつなぐ公民館活動を。



## 【コロナ渦の今…】

- コロナ渦にあるので、リモートの方向へ。
- コロナ渦なので、室外でのイベントを実施してはどうか。
- コロナ渦で高齢者はひきこもりの生活をしている人が多いので、何とか改善させたい。
- 蒲郡市は新型コロナウイルス感染症にかかる活動制限ベルが厳しいと思う。

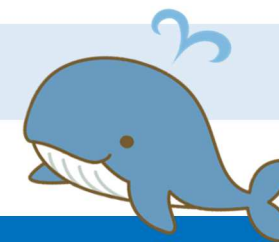


## 【その他】

- 市の方向性、目指すものがみえてこない。
- 地方創生に興味があるが、古いしがらみや慣習の是正をしていかないと実現できないと思う。
- 課題ごとにワークショップができると人が集まるのではないか。
- 子どもたちにとって、タブレットは弊害があるのではないか。道具としてはいいが、学ぼうとする動機づけがなくなる。高齢者も新しいものへ興味を持つことが大切。
- 高齢者の方との関わりがないから高齢者の気持ちを知る必要がある。お年寄りとの交流をもっと深めたい。
- 蒲郡市に引っ越してきて、地域とのかかわりを持つのに生涯学習を活用したい。
- まちづくりには受け身で興味なかった。
- 若者と高齢者の認識・意識に差がある。
- 地域によって、つながりの程度に差がある。







課題	解決策
<p>生涯学習施設が気軽に利用できない！</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 利用しやすい公民館にしたい！</li><li>● みんなが使いやすい図書館・公共施設に！</li><li>● 蒲郡市は発表する場が少ない！</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 予約なしでいつでも気軽に使える場所になるといい。</li><li>● 公民館、市民会館が古い。きれいでないと使う人も集まらない。</li><li>● 市民活動がしやすい公民館に。食事が提供できるように決まりを変えてほしい。</li><li>● 通常使っている人で埋まっている場合があるので、新規参加がしやすい環境にしてほしい。誰でも参加できる環境づくりが必要。</li><li>● 公民館は誰でも自由に使える学校。文化祭に絵を展示するなど、公民館に足を運んでもらうイベントを。</li><li>● 受験生に部屋を開放してはどうか？若い世代に公民館利用を。</li><li>● 学校の行事と公民館の行事。学校を介して行事の連絡をしては？</li><li>● 他の地区のママ友と公民館を利用できるようにしてほしい。</li><li>● 同じ地区でも小学校区が違っているとコミュニケーションが取れない。施設も利用しにくい。小学校と連携してやっていけないか？</li><li>● 図書館のスペースは空間がないので集まれるようにしてほしい。蔵書も増やしてほしい。</li></ul>

課題	解決策
<p>幅広い年代が参加できる機会がほしい！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●すべての年代が参加できるような活動やみんなで交流できる機会がほしい！</li> <li>●魅力あるイベントがない！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若い人への周知方法として、InstagramやLINEを活用しては？広報紙だけでなく複数の媒体でやっていくといい。</li> <li>●講座でも施設でも、みんなで意見をだして作っていただけたらいいと思う。</li> <li>●中高生を公民館利用にどのようにつなげていけばいいんだろう？魅力的なイベントを！</li> <li>●若い世代を巻き込むためには生涯学習施設でのWi-Fi環境は必須。</li> <li>●公民館が無料なのに驚いた。無料だから魅力があるものがないのでは？たくさんの人の参加につなげるためには魅力あるイベント・活動を！</li> </ul>
<p>学んだことを地域に活かさないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に学びを広めていくことが大事！</li> <li>●地域の課題解決につながる学習が必要！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色々な趣味活動の体験の場を市民会館にしては？活動に参加するきっかけ、それぞれの活動がつながるきっかけづくりになるのでは？</li> <li>●学びの日常化が必要(中核が公民館)。</li> <li>●小学生とお年寄りが一緒に学び合う機会が全地区に広まり、それがまちの活性化につながればいいと思う。</li> </ul>



## 課題1

## どういったことをしていくべき？

生涯学習施設が気軽に  
利用できない！

### 【個人の役割】

- 気になるものがあれば見に行く。

### 【地域・行政の役割(講座・イベントに関すること)】

- 管轄の地域以外の人でもイベントが実施できるようにしてほしい。できるという情報発信が必要。
- 各年代にあわせたイベントがあるとよい。
- もっと大勢の人が参加できるように学ぶ様々なきっかけづくりとその周知が必要。
- どこにどんな施設があるか、利用状況が見える化されると利用しやすいのでは？

### 【地域・行政の役割(情報発信・予約システム等に関すること)】

- 公民館が利用できることが周知されていない。SNS とアナログを併用してもっと情報発信を。
- ポータルサイトをつくれるとよい。インスタグラム、市ホームページ(もっと魅力 up を!)、ライン等を活用し、講座の情報をインターネットに挙げていく。
- 小江の公民館のグループラインでは公民館の利用状況が分かる。他の公民館でも活用したらどうか？
- ラインで連絡が入り、そのまま講座に申込できれば気軽に参加できると思う。
- まず知らないといけない。スマホ上で情報がわかるような仕組みが必要。ラインの予約システムの導入など。

### 【地域・行政の役割(その他)】

- 教えてもらう人と教えてあげる人のコーディネーターがいるといい
- 市内の施設で有効に活用されていないところは、有効に活用できるようにしてほしい。
- 市民会館の利用料金が低い。利用に関する規制を緩和してほしい。補助金があると教室などが開催できる。
- やりたいことがあったら誰かに気軽に相談できるといい。
- ニーズ(内容・時間・方法)が把握できれば、それに合わせてマッチングできる。お試し講座を開催しては？
- 無料 Wi-Fi を設置すると若い人は集まりやすい。公共施設にスクリーンやプロジェクターを設置してほしい。

# 1. 個人・地域・行政の役割



## 課題2

## どういったことをしていくべき？

幅広い年代が参加できる  
機会がほしい！

### 【個人の役割】

- まず知らないといけない。
- 今はわざわざ習わずに動画で見て完結したりしているが、コミュニティ、仲間づくりをしていく必要がある。

### 【地域の役割】

- 地域の文化祭などで、子どもが伝統文化にふれる機会を増やす。高齢者から子どもに教える機会を増やす。
- 学生生活や社会生活で学べないことを地域で伝えていければいいと思う。
- 学校や地域からつながっていけるように学校との連携必要。地域住民が先生となる活動を。

### 【行政の役割】

- 学校卒業後のコミュニティとして小学生から高齢者までつなげる拠点づくり。
- 市民の意見を吸い上げる場を設ける。投稿箱、web版をつくる。
- 公民館がからむお知らせが小学校にしか発信されない。中高へも発信して中高校生を巻き込む。中高校生のニーズを聞いて、公民館で講座を開催する。
- コミュニティスクール事業の一環として、学校帰りに公民館に寄れるような環境を作っては？
- 参加者が気軽に参加しやすいように、やっている人が投稿できるなにかがあるといい。
- すべての年代が興味あることを探すのは難しい。年代ごとに講座をしても、誰もが授業参観のような感じ参加できるようにしては？
- 子どもが集まれる場所になればいい。若い人は学校でお知らせがあると、興味がでて参加するかも。同じ世代がいると入りやすい。
- 仕事している人はなかなか参加できない。まずは高齢者と子供をつなげていくことが必要。
- 働き盛り世代は場所と時間が制限されている。オンラインでつながれるといい。

# 1. 個人・地域・行政の役割



## 課題3

## どういったことをしていくべき？

学んだことを地域に  
活かさないか？

### 【個人の役割】

- 生涯学習を提供する側(教える側)に回る。
- 演奏活動をする場を設けることで、やってみる人が増える。
- 仕事でやっていることを生かして公民館などでも教室を開催したい。
- 今は近所付き合いが少なく、声をかけたくても余計なことかもしれないという気持ちがある。そこが課題。

### 【地域の役割】

- GCSL(蒲郡文化スポーツリーダー)の周知が足りない。活用方法を再検討するなど、しかけをしていったほうがいい。
- 年代が変われば、それぞれの困りごとや課題も変わってくる。ニーズや課題の洗い出しが必要。また、地域でやれることを一緒に考える場があればよい。
- 仲間を作ると楽しいので場に集まることができる。地域のコミュニティづくりが必要。

### 【行政の役割】

- ちょっと得意なことを教える場をつくり、参加者を募集する。
- 登録制度をつくる。提供できる場・時間をつくる。
- どういう拠点をつくるか。コーディネートを行政がやるべきでは？
- 学習成果を披露する場、体験する場として、生涯学習まつりのようなものを作ってはどうか？他の地区で活動している内容を体験できる機会を提供することで、やりたいことが見つかるかも？
- 有料の講座の方がしっかりしたプログラムとしてできると思う。
- 防災の知識など、生活に役立つ知識を学ぶ機会を提供すると、地域に生かされると思う。
- 公民館で活動している人は発表の機会があるが、公民館に属していない人は発表の場が少ない。
- 公民館が身近に感じられない。身近に感じられるような公民館づくりをしてほしい。

## 2. 参加したい生涯学習活動



### どんな生涯学習活動に参加したい？

#### 【こんな内容の学習がしたい】

- 大人向けに習字の講座をやりたい。
- 吹奏楽を続けたい。健康に関する講座や体を使うヨガ、手芸の教室。
- いろいろな世代をつなげるには音楽が有効。音楽のイベントで集まれるような機会があればよい。
- 蒲郡市の歴史とか蒲郡市出身の著名人とかについて学ぶ機会があれば、まちに興味をもつきっかけになると思う。
- 蒲郡南部小学校では高齢者と一緒に畑仕事をする体験を行っている。こういった活動が全地域に広まればいい。
- 学校の図書室を開放して、PTAのお母さんが読み聞かせ等の活動を担っていた。こういった活動が活発になればよい。
- 1月4日に西部小学校で行われている百人一首の大会をまちの名物イベントにしてはどうか？
- 市の産業・特産品を周知するために、竹島水族館の深海魚まつりや公民館の料理教室を活用して、魚の生態や特徴、レシピなどを紹介してはどうか？
- 次世代のために子どもが体験・学び続けられる場所がほしい。新しい技術などを教えてくれる場所があるとよい。
- 学習障害のある子どもたちへの学習支援の場がないので、そういった活動を充実してほしい。
- 学校で教えてくれないこと(子育てについて、性教育など、草刈り機の使い方)を教えてほしい。特技・経験を生かした講座など、気軽に参加できる講座が欲しい(仕事を生かしたお金(投資)講座、大工さんがやる工作教室)。

#### 【こんなふうに学習がしたい】

- いろんな人たちとつながりたい。
- コミュニケーションの手助けができる講座があるとよい。
- 子どもたちの居場所づくりをしたい。学校でできるといい。
- 小学校での体験学習などについて、すべての会に参加しなくても行きたいときに気軽に参加できればと思う。卒業した後も参加したい。
- いやいや参加するものは活気がなくなると思うので、やりたい気持ちが大事。
- 生涯学習の場をよそから転入してきた人のコミュニティの受け皿に。
- 赤ちゃんサロンとか児童館とかいろいろあるけど、連携がうまくできていない。遠い場に行くのは大変なので、身近な場でできればいい。



## 蒲郡市生涯学習推進計画2022（案）

章	項目	現行計画 整理No.	備考	
第1章 計画策定にあたって	1 計画策定の趣旨	3-1		
	2 計画の位置づけと期間	(1) 計画の位置づけ	3-2	
		(2) 計画の期間	3-3	
	3 計画の策定方法	(1) アンケート調査の実施	-	新規追加項目
		(2) ワークショップの実施	-	新規追加項目
		(3) 団体・企業ヒアリングの実施	-	新規追加項目
		(4) 策定委員会の開催・パブリックコメントの実施	-	新規追加項目
	3 生涯学習の意義	(1) 生涯学習とは	2-1-1	
		(2) 生涯学習の必要性	2-1-2	
		(3) 蒲郡市が目指す生涯学習	2-1-3	
4 生涯学習をめぐる動向	(1) 国・県の動向	1-1		
	(2) 蒲郡市の取り組み	1-2-1& 1-2-2		
第2章 生涯学習の現状と課題	1 蒲郡市の現状	(1) 人口等の動向	-	新規追加項目
		(2) 生涯学習施設の状況	-	新規追加項目
		(3) 市民の生涯学習に対する意識や活動の状況	-	新規追加項目
	2 生涯学習の推進にあたっての	(1) 各種データ・調査結果からみる現状	-	新規追加項目
		(2) 今後必要な視点	-	新規追加項目
第3章 計画の基本的な考え方	1 基本理念	3-4		
	2 基本方針	-	新規追加項目	
	3 施策体系	3-5		
第4章 施策の展開（検討中）	1 学びの場づくり		学びのきっかけづくり、多様な学習機会の拡充、文化・芸術活動の充実 等	
	2 学びの環境づくり		学習情報の提供、誰もが参加できる環境づくり、学習成果の発表機会の提供 等	
	3 学びを支える基盤づくり		施設の整備充実、活動団体への支援、公民館活動の充実、活動への支援、関連機関との連携 等	
	4 学びを通じたまちづくり		将来の地域の担い手の育成、学びを活かした活躍の場づくり・学びの継承、市民参画のしくみづくり、地域との連携による学び 等	
第5章 計画の推進	1 計画の推進体制		庁内連携体制等について整理します。	
	2 計画の進行管理		PDCAサイクルに基づく推進体制について整理します。	
資料編	1 計画策定の経過			
	2 委員会設置要綱			
	3 委員会名簿			

## 蒲郡市生涯学習推進計画2017

章	項目	整理No.	
第1章 生涯学習推進計画の策定にあたって	1 国・県の動向について	1-1	
	2 蒲郡市における生涯学習の推進について	(1) 生涯学習推進の取組みについて	1-2-1
		(2) 改訂版策定後とその後の動向	1-2-2
第2章 生涯学習の意義	生涯学習について	(1) 生涯学習とは	2-1-1
		(2) なぜ生涯学習が必要なのか	2-1-2
		(3) 生涯学習推進の意義	2-1-3
第3章 計画の概要	1 計画の趣旨	3-1	
	2 計画の位置づけ	3-2	
	3 計画の期間	3-3	
	4 計画の理念	3-4	
	5 計画の体系	3-5	
第4章 基本目標と主要施策	基本目標 1 学びの場づくり	4-1	
	基本目標 2 学びを活かす体制づくり	4-2	
	基本目標 3 学びの環境づくり	4-3	

# 蒲都市生涯学習推進計画 2022

## (骨子案)

令和3年9月

蒲 郡 市





## 目次

第1章 計画策定にあたって	
1 計画策定の趣旨 .....	1
2 計画の位置づけと期間.....	1
3 計画の策定方法 .....	2
4 生涯学習の意義 .....	3
5 生涯学習をめぐる動向 .....	5
第2章 生涯学習の現状と課題	
1 蒲郡市の現状 .....	8
2 生涯学習の推進にあたっての課題 .....	20
3 生涯学習の推進にあたって必要な視点 .....	22
第3章 計画の基本的な考え方	
1 基本理念 .....	23
2 基本方針 .....	23
3 施策体系 .....	23
第4章 施策の展開	
基本方針 1 学びの場づくり.....	25
基本方針 2 学びの環境づくり.....	25
基本方針 3 学びを支える基盤づくり.....	25
基本方針 4 学びを通じたまちづくり .....	25
第5章 計画策定にあたって	
1 計画の推進体制 .....	26
2 計画の進行管理 .....	26
資料編	
1 計画策定の経過 .....	27
2 生涯学習推進計画 2022 策定委員会設置要綱 .....	27
3 生涯学習推進計画 2022 策定委員会名簿 .....	27



## 1 計画策定の趣旨

私たちを取りまく社会は情報化や少子高齢や人口減少、価値観の多様化等により、めまぐるしく変化しています。また、人生 100 年時代と言われる現代においては、一人ひとりがその可能性を最大限に引き出し、豊かな人生を送ることができるよう、誰もがあらゆる機会に学び続けることができる環境づくりが求められており、生涯学習の重要性は一層増しています。

また、少子高齢化の進展や地域のつながりの希薄化、若年・現役世代の地域参加の乏しさなど、地域には様々な課題が存在しています。一人ひとりが自身の人生の豊かさのために学ぶだけでなく、一人ひとりの学習活動がこうした地域の課題解決に資するものとなるよう、学んだ学習成果を地域社会で活かすことのできる循環型の社会の構築が求められています。

蒲郡市においては、平成 7 年に「ゆたかな海と緑の学園都市構想」として、生涯学習推進計画を策定し、その後、平成 17 年、平成 29 年に改定版を策定しました。このたび平成 29 年に策定した「蒲郡市生涯学習推進計画 2017」が計画の最終年度を迎えることから、第 4 期の計画である「蒲郡市生涯学習推進計画 2022」を策定します。

市民一人ひとりが、個人として、または仲間同士で気軽に生涯を通して楽しく学び続けることができるように社会情勢の変遷も考慮に入れ、より身近な生涯学習環境の実現を目指して、「生涯学習推進計画」の見直しを行います。

## 2 計画の位置づけと期間

### (1) 計画の位置づけ

市の「第五次蒲郡市総合計画」（計画期間：令和 3 年度から令和 12 年度まで）の基本目標の一つである「人と文化を未来につなぐまちづくり」を目指すため教育・文化分野の分野別計画として、生涯学習や文化芸術の推進にあたっての基本的方向を示すものです。策定にあたっては、その他の関連計画との整合性を図っていきます。

なお、本計画は「教育基本法」及び「社会教育法」の趣旨を踏まえた「生涯学習推進計画」であるとともに、「文化芸術基本法」により各自治体においての策定が努力義務とされている「文化芸術推進計画」として位置づけます。

### (2) 計画の期間

本計画の期間は、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間とします。

### 3 計画の策定方法

#### (1) アンケート調査の実施

市民の生涯学習に対する意識や生涯学習活動の状況等を把握するとともに、蒲郡市文化協会に加盟する団体や蒲郡市の公民館で活動する団体の活動状況や活動上の課題等を把握するために、アンケート調査を実施しました。

区分	一般調査	団体調査
調査対象者	市内在住の満 18 歳以上の住民：1,500 件 蒲郡市文化スポーツリーダー：77 件	蒲郡市文化協会に加盟する団体：112 団体 蒲郡市の公民館で活動する団体：316 団体
調査方法	郵送配布・郵送回収（回収率 35.5%）	各施設での配布・回収（回収率 69.6%）
調査期間	令和 2 年 10 月 23 日（金）～ 令和 2 年 11 月 20 日（金）	令和 2 年 10 月 23 日（金）～ 令和 2 年 11 月 20 日（金）

#### (2) ワークショップの実施

一般市民や地域で生涯学習活動を行っている人を対象にワークショップを開催し、生涯学習の推進にあつた課題やニーズ、必要な取り組みなどについて、グループトークを行いました。

テーマ	地域で学ぶ。学びを地域に生かす。～ みんなで語ろう！これからの学び・まちづくり ～
実施概要	① 第 1 回：生涯学習に関する講習会・生涯学習にかかる課題の抽出 令和 3 年 8 月 8 日（日） 蒲郡市民会館大会議室（参加者 16 名） ② 第 2 回：課題解決アイデアの検討 令和 3 年 8 月 29 日（日） オンライン開催（参加者 17 名） ③ 第 3 回：課題解決に向けての個人、地域、行政の役割の検討・ 今後必要な生涯学習活動の検討 令和 3 年 9 月 11 日（土） オンライン開催（参加者：16 名）

#### (3) 団体・企業ヒアリングの実施

生涯学習活動をしている団体や地域に生涯学習の機会を提供していただいている企業に対し、ヒアリング調査を実施し、活動の状況や活動上の課題、本市の生涯学習の状況等を伺いました。

#### (4) 策定委員会の開催・パブリックコメントの実施

「蒲郡市生涯学習推進計画 2022 策定委員会」を設置し、計画案についての審議を行いました。また、計画書に市民の意見を反映させるため、計画案をホームページ等で公開し、パブリックコメントを実施しました。

## 4 生涯学習の意義

### (1) 生涯学習とは

生涯学習とは、一人ひとりが健康で豊かな生きがいのある充実した人生を送るため、あらゆる機会にあらゆる場所で生涯を通じて行う学習活動のことです。家庭教育や学校教育、社会教育全ての学習活動を含むものであり、文化芸術、スポーツ、レクリエーション、ボランティア、趣味等、個人が行う多様な活動のほか、企業等で行われている教育・研修活動や出前授業の活動、地域（自分の住む町）の課題について話し合ったり、地域のことを知る活動も生涯学習に含まれます。

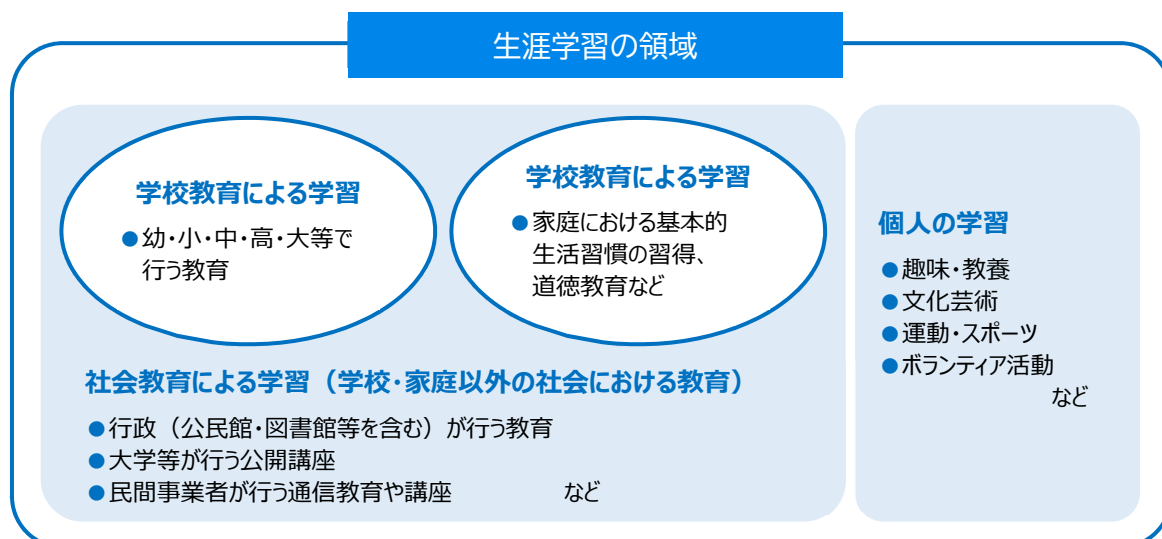
また、誰もが、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を「生涯学習社会」といいます。

### (2) 生涯学習の必要性

生涯にわたって学ぶということは、必要な知識や技術を習得できるだけでなく、学習活動を行うこと自体が生きがいとなり、人生の豊かさにつながります。また、文化芸術に親しむことは、人々の心や暮らしにゆとりと潤いをもたらす、生きる力や気づきを与えてくれるだけでなく、異なる文化を持つ人々の交流や相互理解を促し、人と人をつなぐ上で重要な役割を果たしています。

社会経済情勢が目まぐるしく変化する現代において、絶えず新しい知識や技術を習得していくこと、豊かな感性を養い、多様な価値観を受け入れる視点を持つことは不可欠であり、「人生 100 年時代」を豊かに生きるためにも、生涯学習社会の実現は重要な課題となっています。

また、一人ひとりの学習に対する向上心は地域の活性化をもたらすため、活力あるまちづくりのためにも「学び」は欠くことのできない大切な営みです。学習活動、文化芸術活動を通して地域と交流を深めることは、地域の活性化や高齢者の社会参加、青少年の健全育成、多文化の共生などにつながり、まち全体にとっても大変有意義であると考えられています。そのほか、地域の課題が多様化・複雑化するなかにおいて、「学び」や「文化芸術」を通じて市民一人ひとりが地域にかかわり、地域の担い手として学習の成果をまちづくりに生かしていくことが期待されています。



### (3) 蒲郡市が目指す生涯学習

本市では市民一人ひとりが自発的に学習活動や文化芸術活動を行い、日々生きがいをもって、充実した人生を送ること、また、地域に根差した市民の学びの活動がまちづくりへとつながることを目的として生涯学習、文化芸術の推進に取り組んでいます。市民一人ひとりの学習活動を支えるための多様な学習機会、文化芸術にふれる機会の提供とともに、活動の成果をまちづくりに幅広く生かすことができる仕組みづくりを進めるため、以下の5つの方向から生涯学習社会の実現を目指します。

- 自発的な生涯学習の推進
- 文化公演事業や企画展の充実
- 学校・地域・団体の連携による生涯学習活動の推進
- 公民館を拠点とした学習機会による地域交流の推進
- 学習活動からまちづくりへの展開

#### 蒲郡市生涯学習推進計画とSDGs

SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略であり、平成27年9月の国連サミットにおいて採択された、持続可能な世界を実現するための国際社会全体の普遍的な目標で、17のゴール（目標）と169のターゲットから構成されています。

SDGsの推進にあたっては、誰一人取り残さない世の中の実現や、経済・社会・環境の統合が実現された未来を目指すことが重要であるとされており、国においても、その達成に向けた取り組みが進められています。

本市においても地方創生に向けた取り組みの推進とあわせてSDGsの推進に取り組んでおり、「第五次蒲郡市総合計画」の各施策分野に17のゴールを関連づけることにより、全庁的な推進を図っています。本計画の推進をすることにより、「目標4 質の高い教育をみんなに」、「目標11 住み続けられるまちづくりを」の達成を目指します。

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 5 生涯学習をめぐる動向

### (1) 近年における国の動向

#### ① 教育基本法の改正

平成 18 年 12 月に 60 年ぶりに「教育基本法」が改正され、同法第 3 条において「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」という生涯学習の理念が示されました。

また、同法第 17 条第 1 項において、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、国において基本的な計画（教育振興基本計画）を定めることが規定されました。

#### ② 教育振興基本計画

教育基本法の改正に伴って、平成 20 年 7 月に「教育振興基本計画」が閣議決定され、地方公共団体は、国の「教育振興基本計画」を参酌し、地域の実情に応じて「地方公共団体における教育のための施策に関する基本的な計画」を定めるよう努めることが求められました。平成 25 年 6 月には「第 2 期教育振興基本計画」が閣議決定されています。

その後、平成 30 年 6 月に「第 3 期教育振興基本計画」が策定され、「2030 年以降」の社会を見据えた教育政策の在り方が示されました。生涯学習の推進に向けては「人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進」、「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」、「職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身につけるための社会人の学び直しの推進」、「障害者の生涯学習の推進」といった目標が示されました。

#### ③ 中央教育審議会

平成 30 年 12 月の中央教育審議会では「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の答申がなされ、社会教育の意義・果たすべき役割を明確にした上で、新たな社会教育の方向性と「学びへの参加のきっかけづくりの推進」、「多様な主体との連携・協働の推進」、「多様な人材の幅広い活用の促進」、「社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等」の具体的方策が示されました。

令和 2 年 9 月には、第 10 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理がまとめられ、「社会包摂の実現」、「人生 100 年時代と生涯学習・社会教育に必要な資質・能力等の更新」、「Society5.0<sup>※</sup>に向けたこれからの生涯学習・社会教育」、「地域活性化の推進」、「子供・若者の地域・社会への主体的な参画と多世代交流の推進」等が生涯学習をめぐる現状課題として挙げられています。

#### 用語解説

※Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第 5 期科学技術基本計画において、我が国がめざすべき未来社会の姿として初めて提唱された。



#### ④ 関連する法改正・規定

近年では、文化芸術に関する事項として、平成 29 年 6 月に「文化芸術振興基本法」が改正され、新しく成立した「文化芸術基本法」では、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが明記されています。また、地方公共団体に対し、「地方文化芸術推進基本計画」の策定が努力義務として規定されています。

平成 31 年 3 月には、文部科学省の有識者会議によって「障害者の生涯学習の推進方策について ―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」がまとめられ、共生社会の実現がうたわれています。

## (2) 近年における県の動向

愛知県においては、平成 25 年に「愛知県生涯学習推進計画」が策定され、その基本理念として「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」が掲げられています。

その後、平成 30 年に「愛知県生涯学習推進計画」の基本理念を継承した「第 2 期愛知県生涯学習推進計画」が策定されています。第 2 期計画では、基本理念を実現するための 3 つの視点として、「個人の自立を促し、学びを生かす機会の充実」、「地域の絆（きずな）づくり・ネットワークづくりの促進」、「多様な主体による連携・協働の強化」が設定されており、「長寿社会を豊かに生きる生涯学習」、「家庭と地域の教育力を高める生涯学習」、「持続可能な社会づくりを進める生涯学習」、「職業的自立を高める生涯学習」、「生涯学習推進体制づくり」が生涯学習施策を展開する 5 つの基本的な柱として掲げられています。

## (3) 蒲郡市の取り組み

### ① 「蒲郡市生涯学習推進計画」の策定

本市では平成 7 年に「蒲郡市生涯学習推進計画」を策定し、「がまごおり ゆたかな海と緑の学園都市構想」を軸として「市民大学構想」、「ミニ博物館構想」など 4 つのプロジェクトを提示しました。同年から平成 17 年まで「市民大学講演会」をシリーズ化して開催し、市民に文化講演の機会を提供しました。公民館や体育館など社会教育施設においても講座や教室などを開催しました。また、市の仕事を市民の方に知ってもらうことを目的に、平成 13 年には「出前講座」を開始しました。その他、市民への生涯学習情報として、市内で活動する「団体・サークル紹介誌」の発行やボランティアで生涯学習活動の指導を担う「GCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダー」登録制度を確立し、市民の生涯学習活動への機会づくりを推進しました。

### ② 「蒲郡市生涯学習推進計画 2005」の策定

平成 17 年には第 2 期目の計画となる「蒲郡市生涯学習推進計画 2005」を策定しました。引き続き「がまごおり ゆたかな海と緑の学園都市構想」の実現のため平成 17 年度から平成 26 年度までの 10 年を計画期間としていましたが、2 年間延長して平成 28 年度までとしています。音楽をテーマにしたさまざまな事業の開催を契機に、まちづくりの一環として音楽を中心とした市民の自主的な活動が盛んになってきました。また、児童館などで親子参加型の講座開催や公民館で多岐にわたる分野の講座を開催するなど、生涯学習講座数は飛躍的に増えるなど成果をあげています。

### ③ 「蒲郡市生涯学習推進計画 2017」の策定

平成 29 年には第 3 期目の計画として「蒲郡市生涯学習推進計画 2017」を策定しました。この計画は平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間を計画期間とし、基本理念を「一人ひとりの学びから 未来のひとづくり いえづくり まちづくり」として「GCSL 蒲郡市文化・スポーツリーダー」による市民企画講座や成果発表会の実施などに取り組みました。また、蒲郡市文化協会創立 50 周年記念となる令和 2 年の市民文化祭については、令和元年度末から流行が始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一部オンライン開催とするなど、新しい生活様式に対応したかたちで行いました。

### ④ その他近年の取り組み

市民にとって最も身近な学習拠点である公民館についても整備を進めており、最も老朽化が進んでいた府相公民館を移転し、竹島小学校敷地内に新築しました。学校敷地内に公民館を建築したのは市内初で、学校と地域の交流の促進を目的とした初めての取り組みとなります（令和 2 年 2 月より運用開始）。

その後の令和 3 年には、市の公民館の将来を見据えた施設のあり方・考え方についてとりまとめた「蒲郡市公民館のあり方について（公民館グランドデザイン）」を策定しています。

### 生涯学習をめぐる近年の主な動き

年	国	愛知県	蒲郡市
平成 7 年			・「蒲郡市生涯学習推進計画」策定
平成 17 年			・「蒲郡市生涯学習推進計画 2005」策定
平成 18 年	・「教育基本法」改正 生涯学習の理念が示される		
平成 20 年	・中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」(2月) ・「教育振興基本計画」閣議決定(7月)		
平成 25 年	・「第 2 期教育振興基本計画」閣議(6月)	・「愛知県生涯学習推進計画」策定	
平成 29 年	・「文化芸術振興基本法」改正、「文化芸術基本法」成立(6月)		・「蒲郡市生涯学習推進計画 2017」策定
平成 30 年	・「第 3 期教育振興基本計画」閣議(6月)	・「第 2 期愛知県生涯学習推進計画」策定	
平成 31 年	・「障害者の生涯学習の推進方策について ―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」発表(3月)		
令和 2 年	・「第 10 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」発表(9月)		・府相公民館を移転、竹島小学校敷地内に新築
令和 3 年			・「蒲郡市公民館のあり方について（公民館グランドデザイン）」策定
令和 4 年			・「蒲郡市生涯学習推進計画 2022」策定

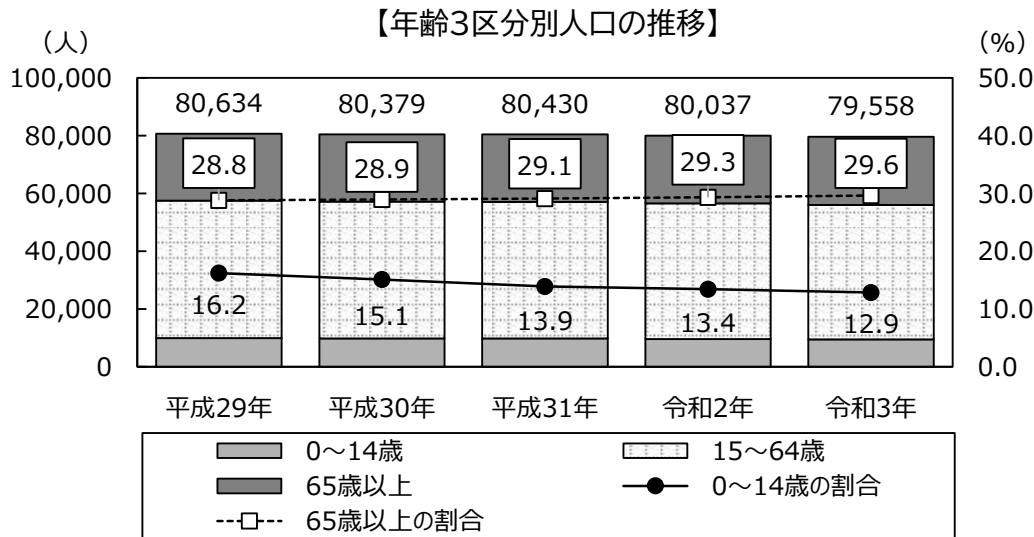
1 蒲郡市の現状

(1) 人口等の動向

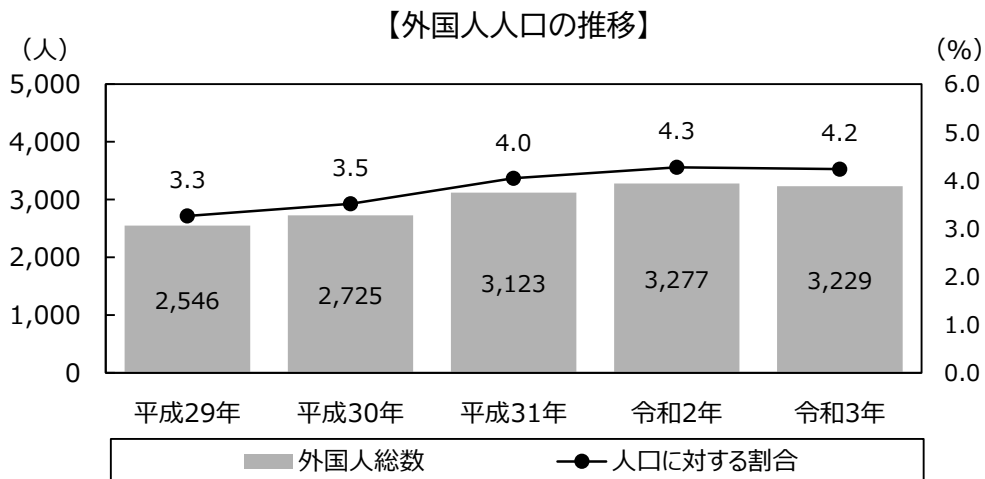
① 人口の推移

蒲郡市の人口は年々減少傾向にあり、令和3年4月1日現在の住民基本台帳人口は8万人を下回り、79,558人となっています。高齢化は年々進み、令和3年4月1日現在の住民基本台帳人口から算出すると、令和3年では29.6%となっています。

外国人人口についてはおおむね増加傾向にあり、令和3年では3,229人となっており、人口の4.2%を占めています。



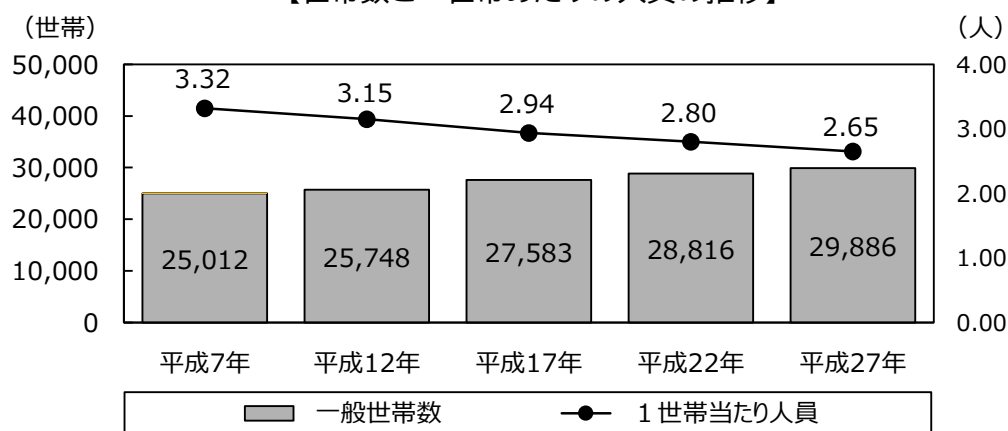
資料：住民基本台帳（各年4月1日）



資料：住民基本台帳（各年4月1日）

蒲郡市の一般世帯数は増加している一方で、1世帯あたり人員は減少し、平成27年では一般世帯数が29,886世帯に対し、1世帯あたり人員は2.65人となっており、世帯の小規模化が進んでいることがうかがえます。

【世帯数と一世帯あたりの人員の推移】



資料：国勢調査（各年10月1日）

掲載データについては  
整理中です。

## ② 地域の状況

【常会加入世帯・加入率の推移】

	H29	H30	R1	R2	R3
加入世帯数※	26,506	-	26,814	-	27,036
加入率	87.6%	-	87.5%	-	86.9%

※2年に1回調査を実施 ※混合世帯・外国人世帯を含まない。

【友愛クラブ（老人クラブ）数・会員数の推移】

	H29	H30	R1	R2	R3
クラブ数	55	55	55	55	54
会員数	3,244	3,127	3,081	2,946	2,868

【小学校児童数・子ども会加入率の推移】

	H29	H30	R1	R2	R3
児童数	4,118	4,096	4,035	3,979	3,874
加入率	74.7%	71.3%	68.0%	64.2%	54.6%

### 【公民館登録団体数・団体利用者数の推移】

	H29	H30	R1	R2	R3
登録団体数	343	345	349	362	
利用者数（延べ数）	150,262	150,511	139,182	59,084	

### 【文化協会加盟団体数・登録者数の推移】

	H29	H30	R1	R2	R3
加盟団体数	128	127	119	112	109
登録者数	1,968	1,890	1,846	1,664	1,346

## (2) 生涯学習施設の状況

生涯学習施設の配置図を示す予定です(現在作成中)

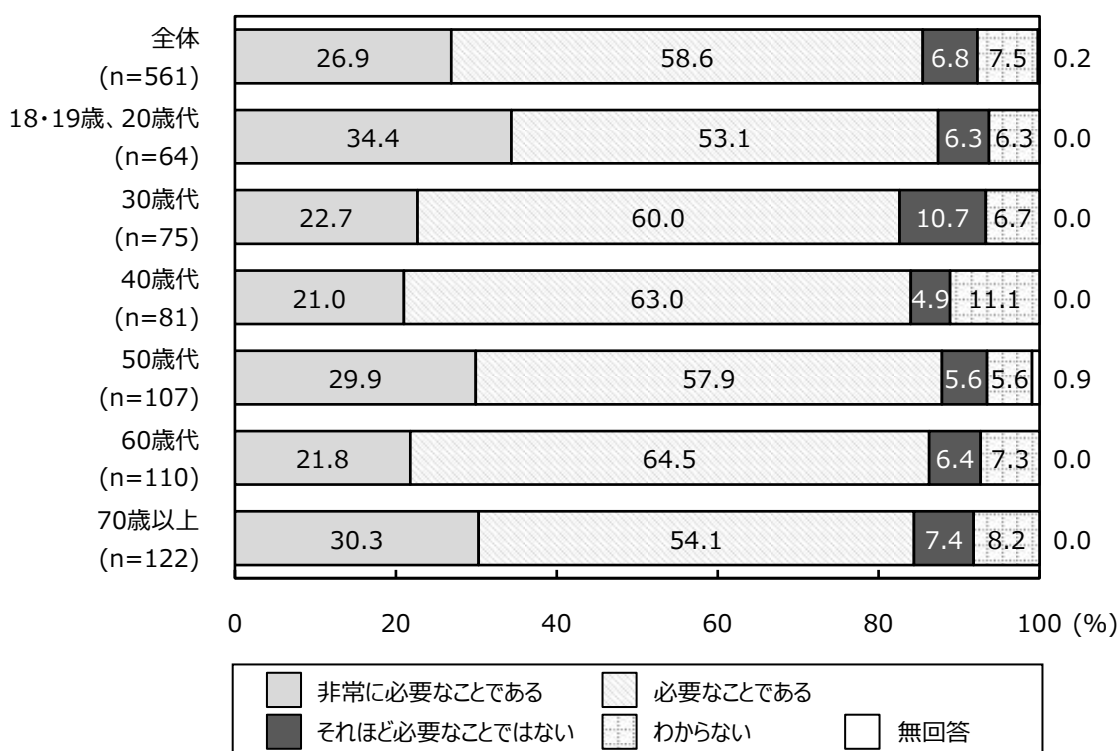
### (3) 市民の生涯学習に対する意識や活動の状況

#### ① 生涯学習に対する意識

生涯学習の必要性については、「必要なことである」が 58.6%と最も高く、次いで、「非常に必要なことである」が 26.9%、「それほど必要なことではない」が 6.8%となっており、『必要』（「非常に必要なことである」+「必要なことである」）については 85.5%となっています。

『必要』の割合を年代別で見ると、『必要』の割合はどの年代も 8 割以上となっていますが、《10・20 歳代》（87.5%）、《50 歳代》（87.8%）、《60 歳代》（86.3%）での割合が高い傾向にあります。

【生涯学習の必要性に対する考え】



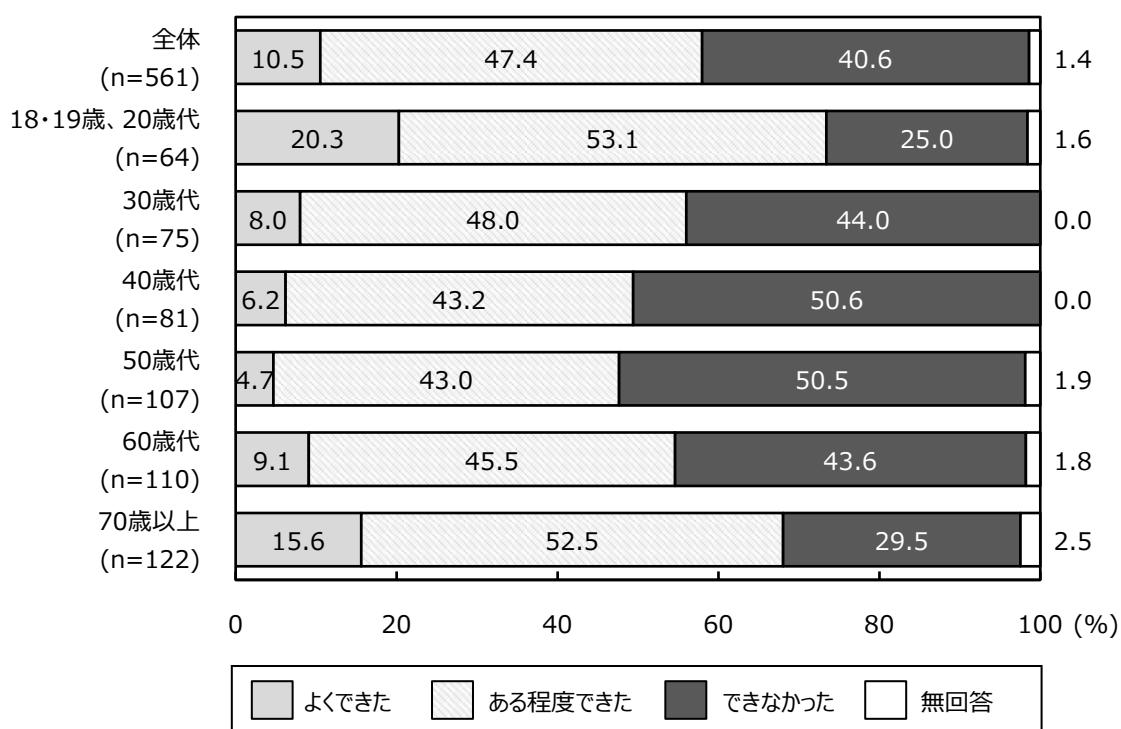
資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査 (nは回答者数)

## ② 生涯学習活動の状況

生涯学習活動をしたと思った時に希望通り生涯学習活動を行えたかについては、「ある程度できた」が47.4%と最も高く、次いで、「できなかった」が40.6%、「よくできた」が10.5%となっており、『できた』（「よくできた」+「ある程度できた」）については57.9%となっています。

『できた』の割合を年代別でみると、『できた』の割合は《10・20歳代》が73.4%と最も高くなっています。ほとんどの年代において『できた』の割合の方が高くなっていますが、《40歳代》《50歳代》については「できなかった」の割合の方が高くなっています。

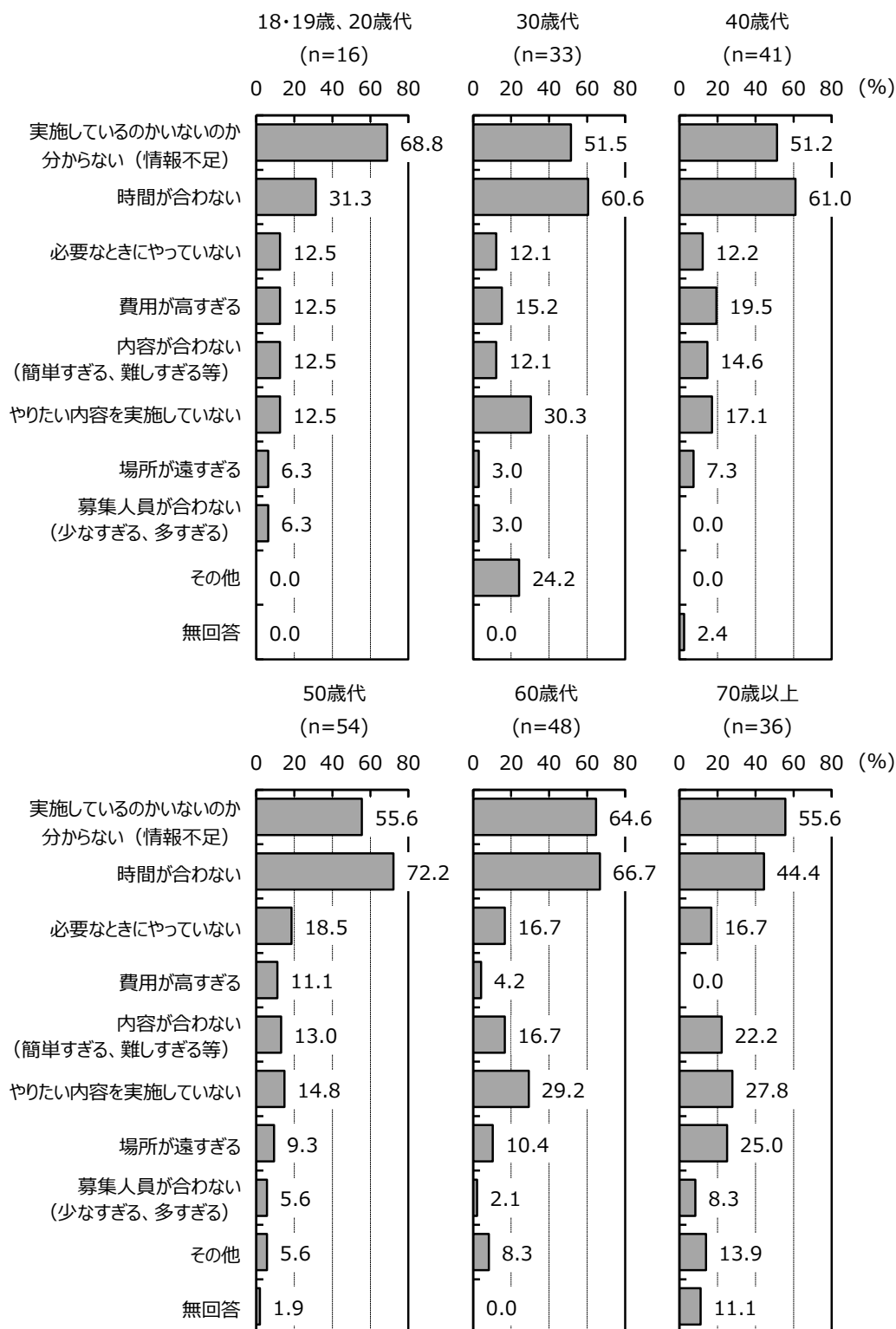
【希望するときに生涯学習活動を実践できたか】



資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査 (nは回答者数)

活動したいと思ったにもかかわらず、希望通りに実践できなかった理由について年代別でみると、どの年代も「時間が合わない」、「実施しているのかいないのか分からない（情報不足）」が上位2位となっていますが、「時間が合わない」の割合は、《30歳代》から《60歳代》で高い傾向にあり、特に《50歳代》で高くなっています。また、《18・19歳、20歳代》では他の年代に比べて「実施しているのかいないのか分からない（情報不足）」の割合が高い傾向にあります。

【希望通りに生涯学習活動が実践できなかった理由】



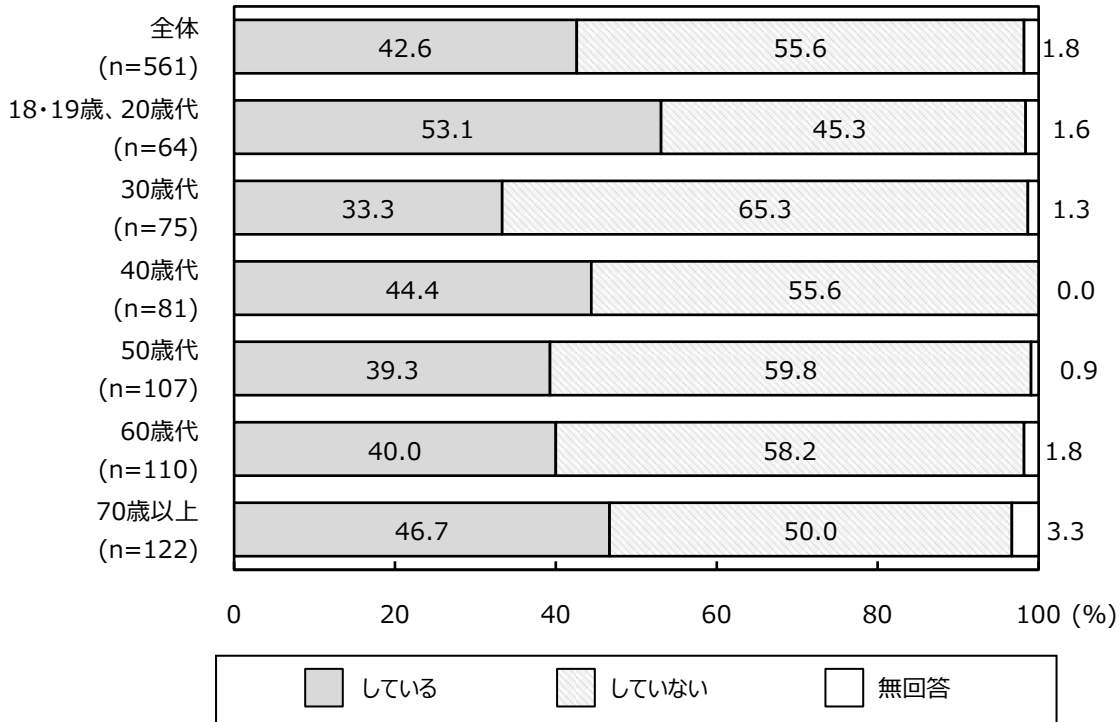
資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査（nは回答者数）  
 （注）回答は複数回答



この2～3年間に生涯学習活動をしているか、については、「している」が42.6%と、「していない」が55.6%となっています。

「している」の割合を年代別で見ると、「18・19歳、20歳代」での割合が最も高く、53.1%となっています。割合が低いのは「30歳代」で、「30歳代」では「していない」が60%以上となっています（65.3%）。また、「18・19歳、20歳代」を除くどの年代においても「していない」の割合の方が高くなっています。

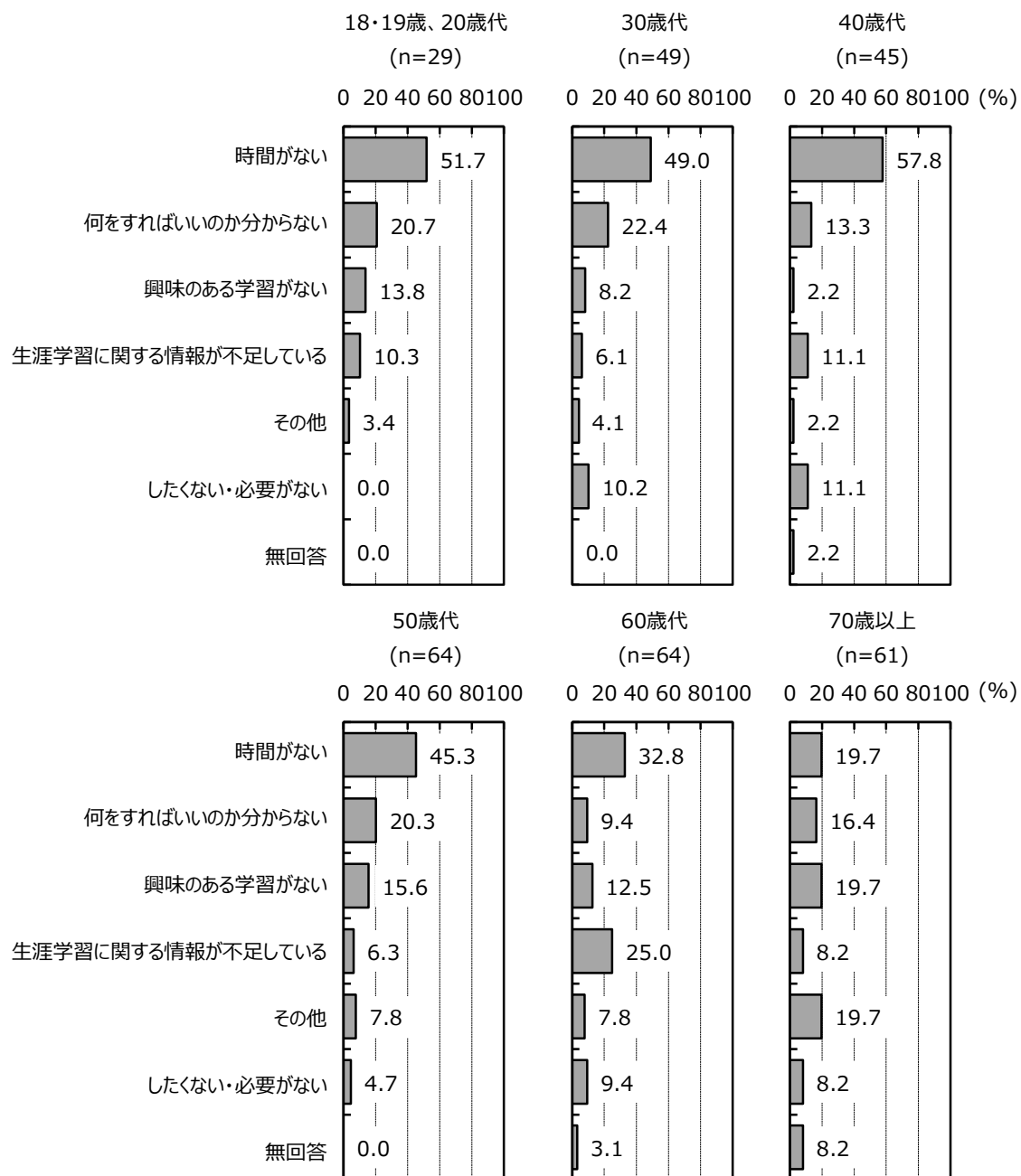
【この2～3年間の生涯学習活動の有無】



資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査 (nは回答者数)

この2～3年間に生涯学習活動をしていない人はなぜしていないのか、理由について年代別でみると、《60歳代》以下は「時間がない」が最も高くなっています。《70歳以上》については「時間がない」と「興味のある学習がない」が同率となっています。また、いずれの年代も「何をすればいいのかわからない」の割合が比較的高くなっています。《60歳代》については「生涯学習に関する情報が不足している」の割合が他の年代に比べて高い傾向にあります。

【この2～3年間に生涯学習活動をしていない理由】

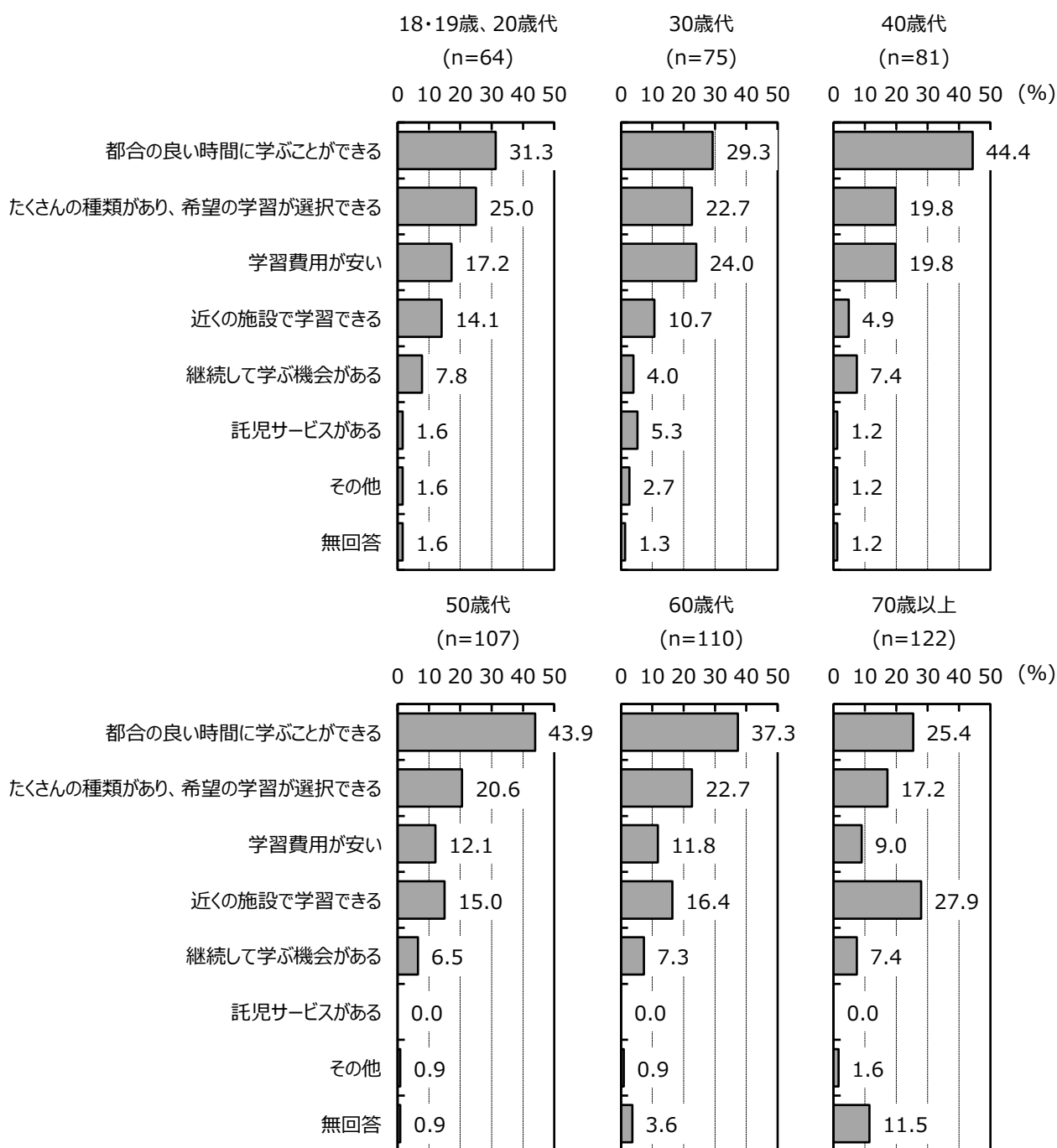


資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査 (nは回答者数)

### ③ 市の講座・教室に求めること

市の講座・教室に参加する上で重視することについて年代別でみると、《60 歳代以下》は「都合の良い時間に学ぶことができる」が最も高くなっています。一方で、《70 歳以上》では、「近くの施設で学習できる」が最も高くなっています。「都合の良い時間に学ぶことができる」の割合は特に《40 歳代》、《50 歳代》で高い傾向にあります。また、《30 歳代》では「学習費用が安い」の割合も比較的高くなっています（24.0%）。

【市の講座・教室に参加する上で重視すること】



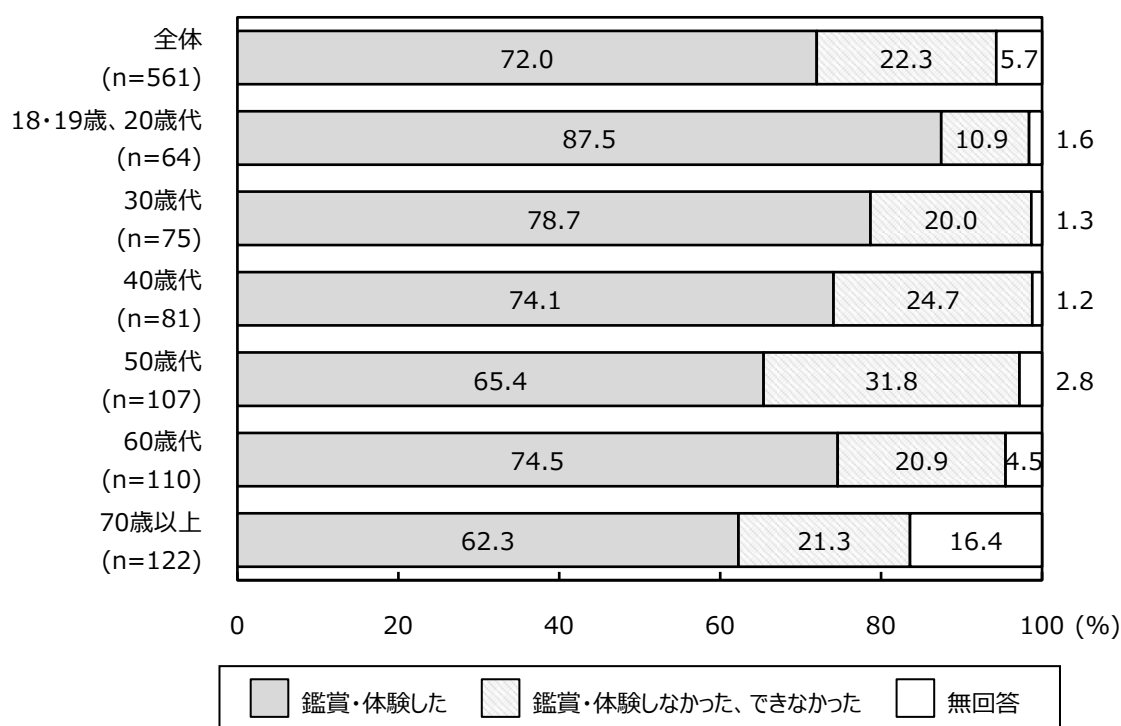
資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査 (nは回答者数)

#### ④ 文化・芸術活動の状況

この2～3年間の文化芸術の鑑賞・体験の有無については、「鑑賞・体験した」が72.0%と、「鑑賞・体験しなかった・できなかった」が22.3%となっています。

「鑑賞・体験した」の割合を年代別でみると、「18・19歳、20歳代」での割合が最も高く、87.5%となっています。割合が低いのは「50歳代」、「70歳以上」で、「50歳代」については「鑑賞・体験しなかった・できなかった」が30%以上となっています（31.8%）。

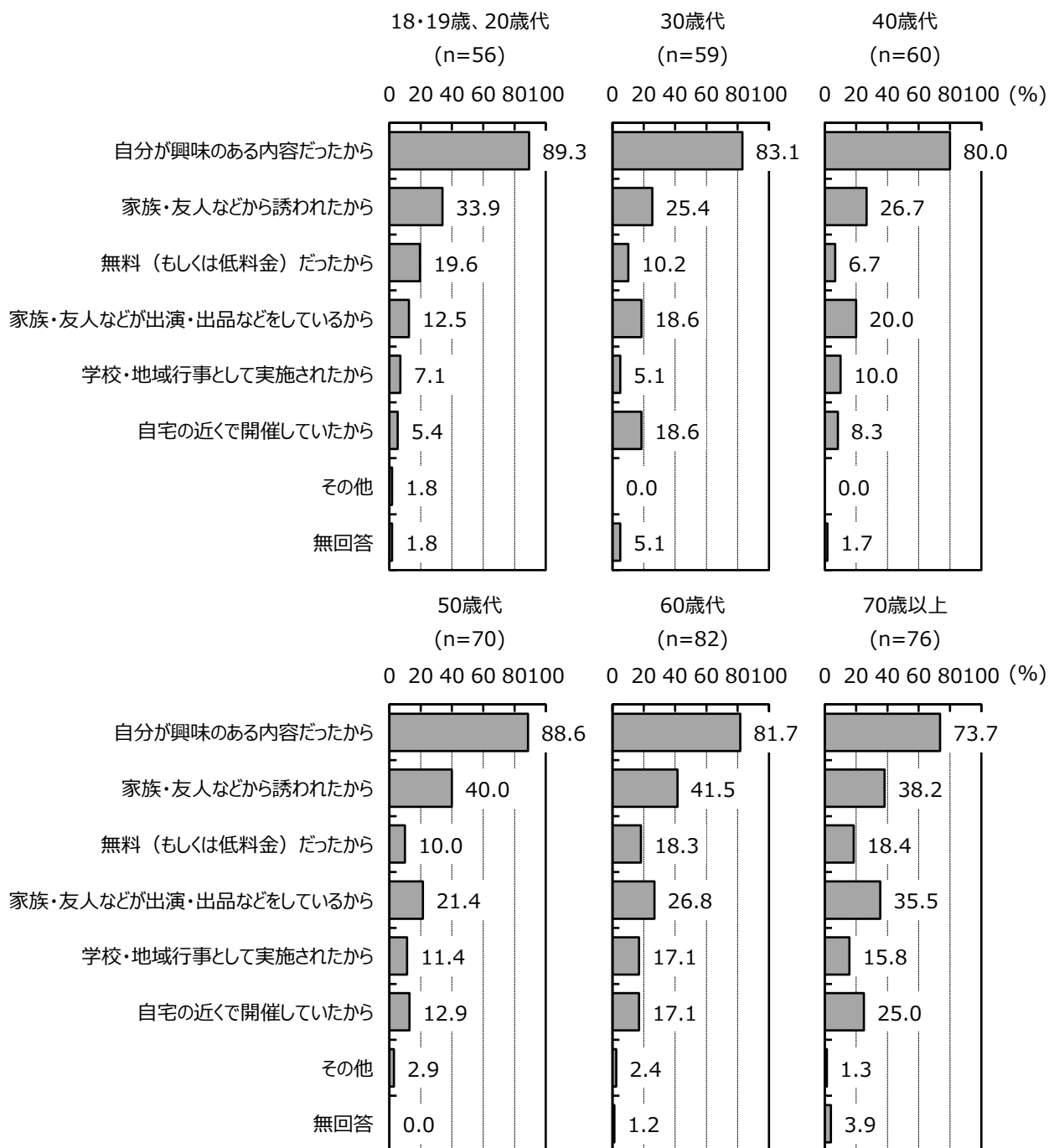
【この2～3年間の文化芸術の鑑賞・体験の有無】



資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査 (nは回答者数)

この2～3年間に文化芸術を鑑賞・体験した理由について年代別で見ると、どの年代も「自分が興味のある内容だったから」が最も高くなっています。次いで割合が高いのは「家族・友人などから誘われたから」となっており、特に《50歳代》以上での割合が高い傾向にあります。

【この2～3年間に文化芸術を鑑賞・体験した理由】

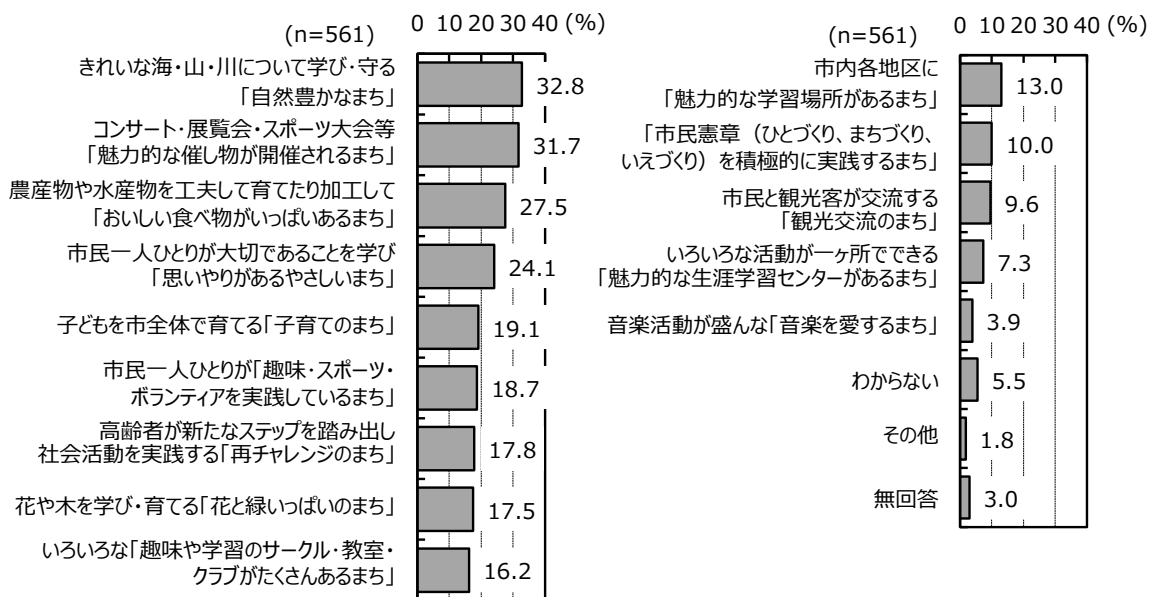


資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査（nは回答者数）  
 （注）回答は複数回答

## ⑤ 蒲郡市の将来像

将来の蒲郡のイメージについては、「きれいな海・山・川について学び・守る「自然豊かなまち」」が32.8%と最も高く、次いで、「コンサート・展覧会・スポーツ大会等「魅力的な催し物が開催されるまち」」が31.7%、「農産物や水産物を工夫して育てたり加工して「おいしい食べ物がいっぱいあるまち」」が27.5%となっており、生涯学習に関する項目が上位を占めています。

【将来の蒲郡のイメージ】



資料：令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査（nは回答者数）  
 （注）回答は複数回答

## 2 生涯学習の推進にあたっての課題

統計データやアンケート調査結果、ワークショップ、団体・企業ヒアリングから把握した現状や課題は以下のとおりです。

### (1) 統計データからみた現状・課題

- 人口減少、少子高齢化が進展しており、世帯の小規模化が進んでいる。一方で、外国人人口はおむね増加傾向にある。
- 常会加入率や子ども会加入率が減少傾向にあり、友愛クラブ（老人クラブ）会員数も減少している。

### (2) アンケート調査結果からみた現状・課題

#### 【生涯学習の必要性に対する意識】

- 生涯学習を必要だと感じている人は80%以上となっている。
- 働き盛り世代（30歳代・40歳代）では、生涯学習が必要だという意識が他の世代に比べて低い傾向にある。
- 30歳代以下の若い世代では余暇の活用や充実のために生涯学習が必要だと考える人が多い。40歳代では仲間づくりや出会い・交流のため、50歳代以上では生きがいを持つためと回答する人が多い。

#### 【生涯学習活動の状況】

- 生涯学習の必要性を感じながらも希望通り活動を行えていない人が30%程度となっており、特に50歳代、60歳代で多い傾向にある。
- 希望通り活動ができなかった主な理由は、「時間が合わない」や「実施しているのかいないのか分からない（情報不足）」で、特に30歳代～60歳代といった仕事や家庭で忙しい人が多い世代にとっては時間が合わないことが一番の課題となっており、都合のよい時に学べる環境が求められている。若い世代では生涯学習に関する情報不足が一番の課題となっている。また、多様な学習機会があり、自由な選択ができる点が求められている。
- 生涯学習活動をしていない理由として何をすればいいのかわからないという人も比較的多くなっており、気軽に始められるきっかけが必要になっている。また、60歳代では活動に関する情報が不足しているという人が他の年代に比べて多くなっています。

#### 【文化芸術】

- この2～3年間に何らかの文化芸術を鑑賞・体験した人は約70%となっている。
- この2～3年間に文化芸術を鑑賞・体験した理由としては、「自分が興味のある内容だったから」、「家族・友人などから誘われたから」をあげる人が多くなっており、自分の興味以外では、家族や友人の誘いがきっかけとなったケースが多い。

### (3) ワークショップからみた現状・課題

#### 【生涯学習に対する意識】

- 生涯学習と言われてもピンとこない。今まで生涯学習について知る機会がなかった。
- 「生涯学習」は身近な言葉ではないので、「生涯学習とは何か」から始める必要がある。

#### 【生涯学習活動への参加】

- 参加したいと思える活動がない。参加型の講座の対象者が少ない。
- 何かをしたいと思ってもどこへ問い合わせをしたらいいのかわからない。
- たくさんの人が参加することが大切で、参加者が偏らないようにしてほしい。
- 現役世代も無理なく参加できる環境があるとよい。

#### 【生涯学習施設の利用】

- 公民館はいつも使っている人がいるので気軽に使えない。
- 他市町村に比べて、公民館など利用制限が厳しい。学習機会を発表する場が少ない。
- 科学館の講座は市外、県外からの参加者が多い。蒲郡市民の参加を促すことが大事。

#### 【必要な生涯学習活動】

- 地域との連携と生涯学習を結びつけた活動がほしい。まちづくりにつながる生涯学習活動が必要。
- まちを活気づけられるような取り組みを市が提案し、年齢・性別を超えて一緒に活動ができると良い。
- 地域とのつながりを大切にしたい企画があればよい。他所から来た人にとって蒲郡市は馴染みにくいところがあるので、生涯学習の場が、転入してきた人にとってコミュニティ構築の場となるようにしたい。

#### 【情報提供】

- 自治会に入っていないと広報が配布されないなど、転入者は情報を入手しづらい。

### (4) 団体・企業ヒアリングからみた現状・課題

- 色々な視点を持つと、どの団体・企業とも協力して活動を行えると思う。つながりをつくるのが大事。
- 公民館で各活動団体の紹介はしているが、それが行き渡っていないように思う。活動をつなげるには情報を行き渡らせることが大切。
- 市民が市で行っている生涯学習活動を知る機会があると参加が進むと思う。
- 蒲郡と言えば「魚」だが、住む地域によっては意識の差がある。蒲郡の産業について知る場があればよい。
- 蒲郡市の活性化につながる学習活動ができればよい。
- 市民を対象とした活動をしていても参加する人が減少している傾向にある。
- 他所から嫁いできた人は周りに助けてくれる人が少なく、活動が地域とのつながりとなっている人が多い。
- 企業が提供する学習活動の取り組みに外部の金銭的補助があると活動しやすい。営利目的の企業では活動に限界がある。
- 蒲郡市はコロナ禍においての活動制限の基準が厳しいように思う。



### 3 生涯学習の推進にあたって必要な視点

社会潮流や蒲郡市の現状・課題をふまえると、生涯学習の推進に必要な主な視点は以下のとおりです。

#### (1) 「人生100年時代」・「Society5.0」に向けた学習活動

医療体制の充実、医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命は著しく伸長し、人生100年時代の到来が予想される中、長い人生をより充実させるためには生涯にわたる多様な学習の機会が重要となります。さらには人工知能（AI）やIoTの進展等の急速な技術革新によって、「Society5.0」という新たな時代が到来すると言われています。そのような中、急速に変化し続ける社会に対応しながら、それぞれの能力や可能性を最大限引き出し、多様な個性を伸ばす「人づくり」の推進がますます重要になっています。

#### (2) 誰もが参加しやすい学習機会

市民が学習したり、文化・芸術に親しむためには、身近な場で気軽に参加できる環境づくりが不可欠です。ワークショップでは「生涯学習という言葉自体になじみがない」といった意見もでており、生涯学習の意義を周知していくほか、参加するきっかけづくり、魅力ある多様な学習機会、ライフスタイルに合った学習環境の提供が求められています。

また、令和元年度末に発生した新型コロナウイルス感染症が拡大の影響で、生涯学習施設の利用や学習活動への参加が難しい状況にあります。感染対策を意識した「新しい生活様式」が求められる中、今後どのように生涯学習活動を推進していくのが重要な視点となります。

#### (3) 利用しやすい生涯学習施設

市内には市民会館や公民館の他、勤労福祉会館、生きがいセンターなど生涯学習に関連する施設が数多くあります。ワークショップでは、特に「市民会館や公民館が利用しにくい、施設が古い」といった意見があがっており、生涯学習施設については、市民が利用しやすい環境を整備していく必要があります。公民館においては、令和3年3月に策定した「蒲郡市公民館のあり方（公民館グランドデザイン）」に基づき、主として「社会教育機能」を果たす公民館（中央公民館）と、主として「地域交流拠点機能」を果たす公民館（地区公民館）と、それぞれの役割に応じた活用を進めていく必要があります。

#### (4) 多世代・多文化交流と地域活性化の推進

生涯学習活動を通じて地域住民が交流することは、新たな地域のつながりと絆を生み出します。また、多様な世代が参加できる機会を提供することで、世代を超えた縦のつながりも生み出し、お互いの視点を生かして地域に対する認識を共有することも期待できるため、多世代が交流できる学びの場は地域の活性化において重要な役割を担っています。また、少子化に伴う労働者の減少やグローバル化の進展等により、外国人住民のさらなる増加が予想される中においては、多文化共生の視点から生涯学習を推進する必要があります。そのほか、地域の活性化に向けては、まちの産業と生涯学習をつなげる取り組みを推進していくことも重要です。

また、少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退、貧困と格差など社会を取り巻く環境の変化に伴い地域の生活課題が多様化・複雑化する中において、生涯学習が市民の地域参加のきっかけとなり、地域の課題解決の一翼を担う役割を果たしていくことが期待されています。

## 1 基本理念

## 学びと文化芸術でつなぐ 地域のきずな

～ 一人ひとりの学びから 未来のひとづくり いえづくり まちづくり ～

「第五次蒲郡市総合計画」における将来都市像のキーワードとして「一人ひとり輝く」、「つながりあう」が掲げられています。「一人ひとり輝く」ためには学びは不可欠であり、文化芸術に親しむことは一人ひとりに夢と活力を与えてくれます。また、一人ひとりが学んだ知識や経験が地域で生かされることで、学びを軸とした交流が生まれ、地域のきずなが強まり、地域住民が一体となったまちづくりが展開されます。

本市では、一人ひとりが主体的に学び、その学びが地域とつながることで、活力のあるまちづくりを実現することを目指しています。こうした考え方にに基づき、市民憲章の考え方を踏まえた上で、本計画の基本理念を「学びと文化芸術でつなぐ 地域のきずな ～ 一人ひとりの学びから 未来のひとづくり いえづくり まちづくり～」とし、生涯学習のまちづくりを推進していきます。

## 2 基本方針

基本理念の実現に向けて、次の4つの基本方針を設定します。

## 基本方針1 学びと文化芸術の場づくり

ライフスタイルや価値観の多様化、「人生100年時代」、「Society5.0」の到来に向け、市民一人ひとりのニーズやこれからの社会に必要な視点に対応した学習の機会の提供に取り組みます。

## 基本方針2 学びと文化芸術の環境づくり

性別や年齢、障害の有無等にかかわらず、誰もが学習活動等に参加できるよう、すべての人がいつでもどこでも学ぶことのできる環境づくり、学習成果を発表できる環境づくりに取り組みます。

## 基本方針3 学びと文化芸術を支える基盤づくり

学びの中核施設として公民館機能の強化や生涯学習施設の整備充実に取り組みます。また、地域の活動団体や企業等の生涯学習活動を支援するとともに、互いの活動がつながる仕組みづくりに取り組みます。

## 基本方針4 学びや文化芸術を通じたまちづくり

一人ひとりの学びの成果が地域課題の解決やまちの活性化に役立つものとなるよう、その仕組みづくりに取り組みます。また、生涯学習が地域コミュニティの基盤となるまちづくりを進めます。

### 3 施策体系

現在検討中  
※第3回会議にて示す予定です。

### 基本方針 1 学びの場づくり

学びのきっかけづくり、学習機会の拡充、文化・芸術活動の充実等に関する施策を取りまとめます。  
※第3回会議にて示す予定です。

### 基本方針 2 学びの環境づくり

学習情報の提供、誰もが参加できる環境づくり、学習成果の発表機会の提供等に関する施策を取りまとめます。  
※第3回会議にて示す予定です。

### 基本方針 3 学びを支える基盤づくり

施設の整備充実、活動団体への支援、公民館活動の充実、活動への支援、関連機関との連携等に関する施策を取りまとめます。  
※第3回会議にて示す予定です。

### 基本方針 4 学びを通じたまちづくり

将来の地域の担い手の育成、学びを活かした活躍の場づくり・学びの継承、市民参画のしくみづくり、地域との連携による学び等に関する施策を取りまとめます。  
※第3回会議にて示す予定です。

## 1 計画の推進体制

庁内連携体制等について整理します。  
※第3回会議にて示す予定です。

## 2 計画の進行管理

PDCA サイクルに基づく推進体制について整理します。  
※第3回会議にて示す予定です。

## 1 計画策定の経過

計画の過程等を整理します。

## 2 生涯学習推進計画 2022 策定委員会設置要綱

生涯学習推進計画 2022 策定委員会設置要綱を掲載します。

## 3 生涯学習推進計画 2022 策定委員会名簿

生涯学習推進計画 2022 策定委員会名簿を掲載します。

【社会教育審議会委員意見】

頁	意見	生涯学習課対応
全体	魅力のある人（事業）を呼べる施設があると、文化芸術面が発展すると思う。	参考とさせていただきます。
全体	大変分かりやすい。レイアウトやフォントも美しく、読みやすい。	
全体	地域学校協働活動について触れておく必要があるのでは？	計画書の第4章以降で示す具体的施策の中で触れていけたらと考えています。
P.13	「情報不足」について、「知らない」ということが問題。生涯学習活動や募集のSNS配信があれば若い世代にも見てもらえやすいのでは？	情報提供方法については、大きな課題であると認識しています。計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
P.14	市民アンケートの調査結果で、18・19歳、20歳代の人々がどんな生涯学習活動を実践されたか知りたい。	クロス集計の結果によると、「参加した学習活動」で多かったのは「教室・クラブ・サークル等でのグループでの自主学習・活動」です。学習活動の内容は「趣味・教養・実技に関するもの」が一番多く、次いで「スポーツ・レクリエーションに関するもの」が多くなっていますが、他の年代においても同様の傾向にあります。
	現在市民が生涯学習活動として学んでいる内容や、学びたいと思っている内容（ニーズ）について知りたい。	市民全体でも現在学んでいる内容は18・19、20歳代と同様の傾向にありますが、40・50歳代では「趣味・教養」よりも「スポーツ・レクリエーション」の方が多くなっています。また、今後行いたい学習活動については、どの年代も「趣味・教養・実技に関するもの」が一番多い結果となっています。
P.15	市役所ががんばって講座・教室をたくさん実施していても、知らなかったら参加する以前の問題。「生涯学習広報部」みたいなものがある、どんどん配信できるとよい。	情報提供方法については、大きな課題であると認識しています。計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
P.21	【生涯学習施設の利用】公民館の利用方法（誰がどうやって使えるのか）を、地域の人たちはみんな知らないと思う。体育館の会議室は有料だが、公民館は無料で使用できることを知らなかった。子育てサークルや習い事等で公民館を使用できるとよい。	公民館の利用についての情報提供方法や活用方法は、この計画のポイントのひとつであると考えています。計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
〃	【情報提供】広報も、冊子とSNS版があったらいい。写真をたくさん載せられてわかりやすいと思う。	参考とさせていただきます。
〃	【団体ヒアリング・企業ヒアリングからみた現状・課題】蒲郡の企業がワークショップや勉強会などをどんどんやっていただけたら、学習活動の幅が広がる。予算がつくことで参加する企業も増えるのでは？親子で参加型もあるとよい。	生涯学習活動の広がりや、地域資源・地元企業を知るという意味でも、とても重要な課題だと考えます。計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中での対応を検討します。

【策定委員会委員意見】

頁	意見	生涯学習課対応
全体	市民の誰もが生涯学習とは何か、と自分事になるために、イラストや分かりやすい言葉を使って概要を作るといい。	概要版を作る予定。言われるように分かりやすいものを作成していきます。
全体	学びに知識が増え、そこで得た知識・経験をまちづくりに活かすという学びと実践が循環する継続可能な社会の実現を目指すというように学びのサイクルを図で示すとよい。	シート「学びの循環図」のような感じでしょうか？
全体	蒲郡の生涯学習の特徴を前面に出して、どんな特徴があるか、それをどうやって充実させていくのか、具体的に（写真やイラストを使って）示すとよい。	イラストにするのは難しいのでは？と思います。（行っている生涯学習の写真等は掲載する方向です）
	PDCAサイクルで事業の見直しをし、次期計画へ反映できるように載せるといい	今回の計画では評価指標を設定する予定です。評価指標については次の庁内検討会で提案させていただく予定です。
全体	誰もが使いやすく、参加したくなるような内容を考えていく必要がある。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
全体	行政が縦割りで分かりづらい。行政が学びのきっかけづくりを計画していることをアピールして推進体制の庁内連携を知らせるとよい。	計画書の第5章「計画の推進」において、庁内連携体制について整理する予定です。
全体	アフターコロナの視点が必要では。休館中は、市民の学習活動が停止してしまう。開館を継続できる工夫をもちこむことができるか。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
全体	オンラインを活用して学び続ける環境を整備し、一方、市民のITスキルを積極的に向上させる働きかけも必要。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
4	今後は、学校を生涯学校として活用していく。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
P.10	公民館のR2の利用者数は誤りか。	コロナによる利用者減となっています。
P.13	どこで、何をやっているか分からない。情報提供や発信拠点の場を行政がつくってほしい。	今回ワークショップで多数の人から意見が出ていた。今後施策に盛り込んでいくことと思っている。
P.21	生涯学習は、学習の場に通うだけでなく、身近な地域での学びの場を活かすべき。例えば、公民館だけでなく、集会所を活用しては。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
〃	誰もが先生、生徒となり、高齢者だけでなく、若い世代にも先生を担ってもらおう。地域も地道な努力が必要。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
〃	いきいきサロンなどに男性の参加が少ない。男性、子供たち、若い世代の人が先生約になれるようなイベントを通して地域に親しみをもってもらえる生涯学習活動を。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
〃	誰もが使いやすく、参加したくなるような内容を考えていく必要がある。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
P.22	利用しやすい生涯学習施設に「社会教育機能」「地域交流拠点」に「文化芸術拠点」を加えてほしい。そこで活動している団体の具体的な話し合いの場がほしい。	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。
	「音楽のまち蒲郡」と言われてきた。計画には文化芸術活動の支援の手立てや活動拠点を使いやすいものにしていくことなどをに入れてほしい	計画書としては第4章以降で示す具体的施策の中で対応する予定です。



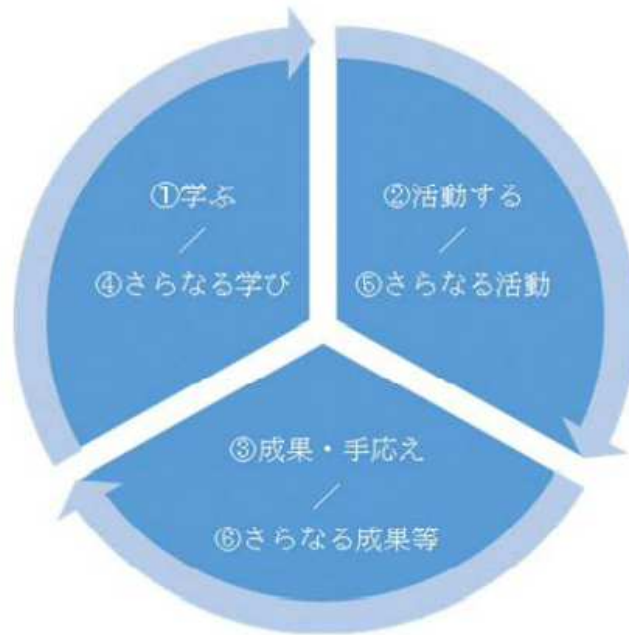


図 2 - 1 学びの循環 (①→②→③→④→・・・)